

きゅうしょく だより

2019年
9月号

9になりました。まだ残暑が厳しいですが、朝夕は少し涼しくなってきました。
いよいよ実りの秋がやってきます。美味しいお芋やくだものがたくさん食べころを迎えます。
夏の暑さで疲れた体を、美味しい秋の味覚で整えましょう!

お月見

お月見は満月を楽しむ風習で、旧暦8月15日(現在の9月中旬)の夜を「十五夜」といい、十五夜のお月様は「中秋の名月」と呼ばれ、特に美しいとされています。この時期、日本では農作物の収穫期でもあることから、田畠でとれたものを供え感謝する大切な行事もありました。特に里芋は最盛期で、皮付きのままふかした「きぬかつぎ」を供える習わしがあり、この夜の月を「芋名月」ともいいます。お月見には、「だんご」というイメージがあると思いますが、今年は、「きぬかつぎ」を食べながら、満月のお月様を眺めるのもいいですね。裏面にレシピがありますので、ぜひ作ってみてください!

秋においしいくだもの

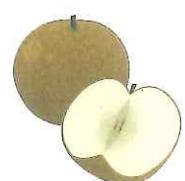
秋には食べ頃を迎えるくだもののがたくさんあります。くだものにはビタミンが多く含まれており、ビタミンには体調を整えてくれる働きがあります。また、くだものに含まれるブドウ糖は脳のエネルギー源となります。1日あたりのくだものの目安量は3~5歳のお子様で150g、大人で200gです。

美味しく食べるコツ



柿(中1個200g)

種やへたに近づくほど甘みが薄くなるので、皮は薄くむくのがおすすめです!



日本なし(1個200g)

冷やしすぎると、なし本来の甘さが感じられなくなってしまうので、食べる少し前に冷蔵庫から出しておくとよいでしょう。



ぶどう(1房150g)

房の上の方が甘味が強いで、房の下の方から食べ始めると最後まで美味しく食べられます!

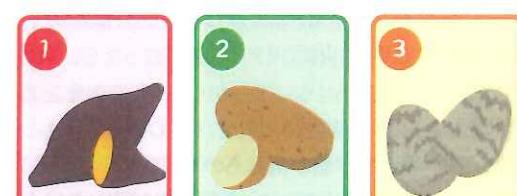


いちじく(1個50g)

割れそうなおしりの部分が一番甘くておいしいので、あたまの部分から食べるのがおすすめです!

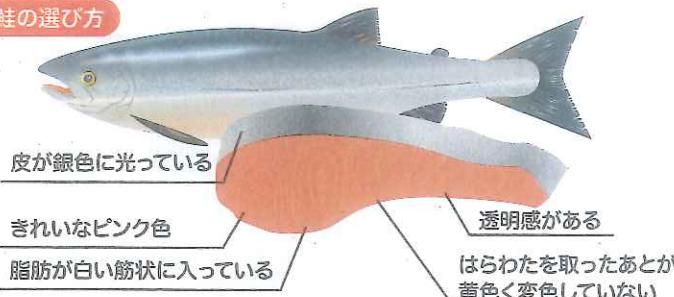
キッズチャレンジ クイズ

芋はどうでしょう?



きせつの食べ物探偵団♪ 「鮭」

鮭の選び方



栄養素

ビタミンD(カルシウムの吸収を促す)

豆知識

身のピンク色は、アスタキサンチンという色素によるもので、甲殻類のプランクトンを食べることで蓄積されます。エビやカニの殻、鯛や金目鯛の表皮の色もアスタキサンチンによるものです。

※パックに入っている時はドリップ(魚から出る汁)が出ていないことも確認しましょう!

つくろう食べよう お料理大好き!

鮭のホイル蒸し

材料: 2人分

生鮭	160g(2切れ)	バター	5g
塩	1g(小さじ1/6)	タマネギ	25g(1/6個)
胡椒	少々	エノキ	15g(1/7袋強)
カツオ出汁	15ml(大さじ1)	シメジ	15g(1/7袋強)
醤油	7g(小さじ1強)	大葉	1g(1枚)



作り方

- 生鮭に塩、胡椒をふり、カツオ出汁と醤油をふりかけ、冷蔵庫に10分程置いておく
- アルミホイルを鮭1切れが包める大きさ2枚重ねにして広げ、バターを塗る
- ②のホイルに鮭をのせ、タマネギ(薄切り)、エノキ(根元を切る)、シメジ(小房に分ける)を重ねて、鮭を漬けこんでいた調味料を小さじ1杯(1人分あたり)かける
- 中身が漏れないように、アルミホイルで包む
- フライパンに1cm程度水を張り、沸騰したら④を並べ、蓋をして弱火で10分ほど、鮭に火が通るまで蒸し焼きにし、刻んだ大葉を飾る

きぬかつぎ

材料: 2人分

里芋	240g(8個)	ゴマ(白)	1.5g(小さじ1/2)
味噌(白)	6g(小さじ1)	ゴマ(黒)	1.5g(小さじ1/2)
砂糖	2g(小さじ1/2強)		



作り方

- 里芋は泥を落とし、水を替えながらしっかりときれいに洗う
- 里芋の底を少し切り落として座りを良くし、里芋の下から1/3に包丁を入れてグルッと一周切れ目を入れる
- 蒸し器に水を張り、火にかけて蒸気が立ったら、②の里芋を入れ強火で10~15分蒸し、竹串がすっと刺さるくらい柔らかくなったら火を止める
- 【調味料A】を耐熱容器に入れて、600Wの電子レンジで10秒弱加熱してかき混ぜる(量が多い場合は砂糖が溶けるのを目安に調節する)
- ③の里芋の粗熱がとれたら、下部の皮が取れないように押さえながら、上部の皮を剥ぐ
- 里芋に④の甘味噌をつけ、白ゴマと黒ゴマを合わせたものをまぶす